【短歌】

楠瀬　兵五郎　選

山肌を赤く切り裂くなだれ見え砂防工事のひびく終日(ひすがら)　武内　弘子

逃げるなと刈田の畦にこゑ聞こゆ幼兄弟何を見つけし　竹村　咲子

絶え絶えに残る古径(みち)なつかしく鎌もち森の栗拾ひゆく　出原　久子

厚からず薄すぎずとて大根播けば畝にまだらのこの種模様　高橋　章

草引くも楽しき作業と思ふべし引き終へし畑のすがしさに佇(た)つ　公文　正子

病院へ通ふ途中の川面には鴨ら気ままに遊ぶがに見ゆ　大石　綏子

日本一九重の吊橋渡りゆく河岸の山の紅葉あかるし　門田　明子

午前四時明星太く輝くを桂男(かつらを)も覗くや浮く秋の月　北村佐喜子

一片の雲なく秋の里しづか干大根がカラカラ乾く　松中　賀代

ペタンクで先輩二人入賞す記事の写真の矍鑠(かくしゃく)として　小松　隆之

六人のうからの揃ふ元日を胸に刻みて子ら巣立ちけり　山崎　貴子

小学の頃に食べにし紅みかん八十過ぎて植えて楽しむ　有澤　春江

木犀の香れる道を来て見ればあたかもここは新改の駅　公文多賀子

病む妻と釣れど釣れない室戸港車に昼を食べて昼寝す　高野　和一

関節の痛みやはらぎ六日経ち友らと集ふよろこびとなる　小原　景守

この畑も間なく宅地となるらむか赤き標(しるし)の杭が打たるる　小原　子川

元気ある友に誘われる同窓会逢いたいけれど歩けぬ私　門田　喜美

廃校の恩師よ奥様よみ子達よ我が家の二階に在(いま)したる頃　森本　幸美

ニンニクの種を植えいし父の顔亡き秋にして思い出す日々　小野寺朱実

親しきに嫁と娘がメール打つ鰻来る間も車の中も　伊藤　清子

南国市のALTは五人にて会話華やかに皆女性なり　高田　清子

その夫の顔をくまなくなめて去り変らぬいびき響く病室　古谷　由美

この道をまっすぐ海に沿い行けば息(こ)の住める町今日は日和佐まで　佐々木真里

使ひ過ぎ只一言に医師は言ふ肩の写真を吾に見せつつ　小野川恵仁

天空をさ迷ひてゐるわが思ひしばし解かるる高原の風　前川　竜女

赤牛と黒牛放つ県境風車は回るただひたすらに　宮地　亀好

この年の紅葉特に美しと峰の家の背戸にひとり見渡す　坂上のぶ子

近い人救いて生きし農夫の父目立つことなし誇り教わる　横山　淑子

仲間らと技芸競いし鉢作り秋の会場に輝きてあり　谷内　務

踏みしめて行くには惜しき紅一面中津渓谷のもみじ散り敷く　公文　千恵

「おい」と呼ぶ夫の声にふと目覚む街頭に朝立つを起しくれしか　吉本　悦子

歌詠みの心得習いぬ三Sは新鮮、真実、調べがよいこと　山下　弓枝

孫と娘に大好きな梨を少し植えクワガタ二匹に先喰われたり　森本真理子

尊くもかけがへのなきこの生を自殺サイトで捨つるなどとは　古川　安子

終日を一人で過ごす時長し荒れゆく庭に小鳥飛び交ふ　浜田　常子

いみじくも誰が名付けし福寿草雪と照りあひ新春を祝(ほ)ぐ　大石さち子

それぞれに澄まして写す敬老会若かりし頃の浮かぶ人々　竹村　稔美

事一つ終りてくつろぎ月末の髪染めて行く自転車軽く　尾立　かよ

二度の時化に傷みしわが菊も黄の色から咲き始めたり　横田直加子

亡き夫よ見ておりますか孫の成長を花嫁姿を見たいと言いしを　竹村　松子

平山湖北国遠く飛び来しを鳥語を知れば聞きたいと思う　山崎みどり

唐辛子のやうな辛さを少し持ち俺俺詐欺に気をつけ生きむ　法光院俊子

介護施設さわらびは古刹に遠からず沁み入るごとし今日の晩鐘　大岸由起子

あぜにそひ彼岸花咲き遙かなる北山の辺に草焼く煙　有沢　泰子

試みについて行かむか長き尾を立てて黒猫月下に誘ふ　中西　敏子

あれもまた夫婦のかたち黙黙とランチすませて席立ち行けり　佐竹　玲子

八十年涸れし事なきわが井戸も二十余年を生では飲まず　鍵山　みつ

寒き鋭き風の中なり立ち止まるわれを見上げて犬の眼は問ふ　楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。

図書館だより

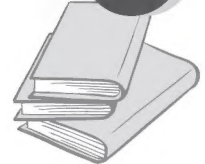
市立図書館

読みたい本を探します「相互貸借のご紹介」

市立図書館（本館、香北・物部分館）に所蔵のない本も、県内の他の図書館から借り受ける『相互貸借』がご利用できます。

※どの図書館にも所蔵していないなどの理由で、ご希望にそえない場合もあります。

【利用方法】

市立図書館（本館・分館）の窓口で、読みたい本の蔵書の確認をお問い合わせください。

館内に蔵書がない場合、県内の他の図書館の所蔵状況を確認し、所蔵があれば取り寄せて、市立図書館を窓口に本の貸出、返却をすることができます。

また、個人で県立図書館や他の図書館で借りた本の返却もできますので、市立図書館までお持ちください。

なお、お探しの本や資料は、『高知県図書館横断検索システム』（インターネットでの検索）で調べると便利です。

おすすめの1冊

永遠の仔 上・下巻
（作:天童荒太）

笙一郎、梁平、優希三人の出会いは、それぞれの重荷を背負い、心に傷を負って入院していた病院。三人とも、心の救いを求めて悩み、友情を育んでいった。

20年後、ある事件をきっかけに三人は再会。仮面をつけた生活を続け、心の傷や誰にも言えない苦しみ、秘密をかかえながら、本当に愛されたい、救われたいと願い、懸命に生きていく三人に心の救いはあるのだろうか。「生きていてもいいんだよ。本当に生きていてもいいんだよ」で終わる物語はいろいろと考えさせられる本である。

おねえさん（香北町）

新着本の紹介（香北分館）

〔大人向け〕

▽岸豆（吉村淑甫）▽日本の論点2008（文藝春秋）▽旅、あきらめない（鎌田實）▽ガン絶望から復活した15人（中山武）▽日本語オノマトペ辞典（小野正弘）▽ウオッチメイカー（ジェフリー・ディーヴァー）

〔子ども向け〕

▽アラマタ大事典（荒俣宏）▽本性バレバレ!?心理ゲームかくれキャラ診断（あまきシスターズ）▽わにわにのおでかけ（山口マオ）▽旅ねずみ（松居スーザン）▽№6♯6（あさのあつこ）

まちの話題

三嶺山系でシカ対策　被害防止ネットを設置

昨年十一月十日、三嶺山系の「サオリガ原」から「カヤハゲ」ルートの登山道周辺で『三嶺を守るみんなの会』のメンバーや高知中部森林管理署職員ら約九十人がニホンジカ被害防止ネットの設置作業を行いました。

三嶺山系では、ニホンジカの増加による食害と天然林の皮剥被害、林地踏み荒らしによる森林の荒廃等が発生しており、今回の作業は、物部川源流域の森林の保全と濁水防止を図るために実施されました。

今回の作業で、山頂部のオオヤマレンゲ、ミヤマクマザサをネットで覆ったほか登山道周辺のモミ、トガ等の樹木（四百八十本）の周囲と根に皮剥防止ネットが設置されました。

480本の樹木に被害防止ネットを設置